

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野 大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代医学で用いられる診察法と検査法、また症状別に疾患の病態生理を理解する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学の概要を理解する。			期末試験 90% その他(出席状況、授業態度等) 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学総論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第7章 運動機能検査 1						
第2週	第7章 運動機能検査 2						
第3週	第7章 運動機能検査 3						
第4週	第8章 その他の診察						
第5週	第9章 臨床検査法 1						
第6週	第9章 臨床検査法 2						
第7週	第9章 臨床検査法 3						
第8週	第10章 おもな症状の診察法 1						
第9週	第10章 おもな症状の診察法 2						
第10週	第10章 おもな症状の診察法 3						
第11週	第10章 おもな症状の診察法 4						
第12週	第10章 おもな症状の診察法 5						
第13週	第10章 おもな症状の診察法 6						
第14週	第11章 治療学 第12章 臨床心理						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。						

令和5年度	授 業 計 画 書						
学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 体のメカニズムや生理的・心理的変化を理解し、トレーニング指導ができる。 2 トレーニング内容を理解した上で、運動指導やアドバイス、機能改善することができる。			評価方法			
授業概要	解剖や生理、トレーニングの知識を理解し、臨床で臨機応変に適切な指導が行えるよう、基礎知識の理解に加え応用力を深めることを目的とする。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 スポーツトレーニング理論	使用器材	提示装置				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	筋肉の生理的3大特徴						
第2週	トレーニング原則(全面性・個別性・過負荷・意識性・反復性・可逆性・特異性)						
第3週	トレーニング原則(全面性・個別性・過負荷・意識性・反復性・可逆性・特異性)						
第4週	トレーニングメニューの作成(運動の種類と強度)						
第5週	トレーニングメニューの作成(強度設定について、強度/時間/頻度/期間)						
第6週	トレーニングメニューの作成(強度設定について、強度の計算、心拍数設定とカロリー計算)						
第7週	姿勢から見たトレーニング指導						
第8週	姿勢から見たトレーニング指導 ストレッチと穴によるケア						
第9週	生活習慣と生活の癖(リズムと自律神経、成長ホルモン、食5行から)生活を書き出してみよう						
第10週	生活習慣と生活の癖(リズムと自律神経、成長ホルモン、食5行から)生活を見直してみよう						
第11週	エネルギー供給機構とダイエット 疲れのメカニズムと対処法 呼吸と脈拍数と自律神経						
第12週	鍼灸師の心理学的役割(アソシエーションとディソシエーションから)						
第13週	ウォーミングアップとクーリングダウン						
第14週	障害と水分補給(内科的急性疾患と慢性疾患、疲労骨折と悪性腫瘍)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 小テストを行う前には事前に復習を行うこと。 2 発表担当者は、事前に予習をし練習をしておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.内分泌系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.神経系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.感覚器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第7章 内分泌系 1 下垂体 2 松果体						
第2週	3 甲状腺 4 上皮小体						
第3週	5 副腎 6 膵臓 7 性腺						
第4週	第8章 神経系 1 神経系の構成 2 中枢神経 (1) 脊髄						
第5週	(2) 延髄と橋 (3) 中脳 (4) 小脳 (5) 間脳						
第6週	(6) 大脳 (7) 脳室系 (8) 髄膜 (9) 脳脊髄液 (10) 脳の血管						
第7週	中間試験						
第8週	3 伝導路 (1) 反射路 (2) 下行性伝導路 (3) 上行性伝導路						
第9週	4 末梢神経 (1) 脳神経						
第10週	(2) 脊髄神経 (3) 前枝と後枝						
第11週	(4) 上肢の神経 (5) 下肢の神経						
第12週	(6) 自律神経(交感神経、副交感神経)						
第13週	第9章 感覚器系 1 視覚器 (1) 眼球 (2) 眼球の付属器						
第14週	2 平衡感覚器 (1) 外耳 (2) 中耳 (3) 内耳 3 味覚器 4 嗅覚器						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験10年	担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得することを目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第13章 感覚	感覚の分類と一般的性質					
第2週	第13章 感覚	体性感覚 内臓感覚					
第3週	第13章 感覚	痛覚					
第4週	第13章 感覚	味覚と臭覚					
第5週	第13章 感覚	聴覚 平衡感覚					
第6週	第13章 感覚	視覚					
第7週	第14章 生体の防御機構	生体の防御機構					
第8週	第14章 生体の防御機構	免疫反応①					
第9週	第14章 生体の防御機構	免疫反応②					
第10週	第15章 身体活動の協調						
第11週	総合復習①						
第12週	総合復習②						
第13週	総合復習③						
第14週	総合復習④						
第15週	総合復習⑤						
授業外 学習指示等	予習・復習は配布プリント、教科書を熟読すること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整形外科疾患 その1						
第2週	整形外科疾患 その2						
第3週	整形外科疾患 その3						
第4週	整形外科疾患 その4						
第5週	整形外科疾患 その5						
第6週	整形外科疾患 その6						
第7週	整形外科疾患 その7						
第8週	整形外科疾患 その8						
第9週	整形外科疾患 その9						
第10週	整形外科疾患 その10						
第11週	整形外科疾患 その11						
第12週	整形外科疾患 その12						
第13週	整形外科疾患 その13						
第14週	整形外科疾患 その14						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野 大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代医学的観点から疾患の疫学、病因、病態生理、検査、症状、治療法、予後を理解する。			評価方法 期末試験 90% その他(出席状況、授業態度等) 10% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学の概要を理解する。						
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第4章 呼吸器疾患 1						
第2週	第4章 呼吸器疾患 2						
第3週	第4章 呼吸器疾患 3						
第4週	第5章 腎・尿器疾患 1						
第5週	第5章 腎・尿器疾患 2						
第6週	第5章 腎・尿器疾患 3						
第7週	第5章 腎・尿器疾患 4						
第8週	第6章 内分泌疾患 1						
第9週	第6章 内分泌疾患 2						
第10週	第6章 内分泌疾患 3						
第11週	第6章 内分泌疾患 4						
第12週	第7章 代謝・栄養疾患 1						
第13週	第7章 代謝・栄養疾患 2						
第14週	第7章 代謝・栄養疾患 3						
第15週	第7章 代謝・栄養疾患 4						
授業外 学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.取穴に必要な体表解剖を習得し触知できる。 2.正経十二経脈、督脈、任脈の主要な経穴を骨度法を用いて取穴できる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴概論Ⅰで学んだ経穴を実際に人体で取穴できることを目指す。			筆記試験＋実技試験(期末) 70% 小テスト30% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	液晶プロジェクター、ポイントシール、メディスンペン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	ガイダンス 手の太陰肺経(主要な経穴の復習) 手の陽明大腸経(主要な経穴の復習)						
第2週	小テスト 手の太陰肺経(主要な経穴の取穴) 手の陽明大腸経(主要な経穴の取穴)						
第3週	足の陽明胃経(主要な経穴の復習) 足の太陰脾経(主要な経穴の復習)						
第4週	小テスト 足の陽明胃経(主要な経穴の取穴) 足の太陰脾経(主要な経穴の取穴)						
第5週	手の少陰心経(主要な経穴の復習) 手の太陽小腸経(主要な経穴の復習)						
第6週	小テスト 手の少陰心経(主要な経穴の取穴) 手の太陽小腸経(主要な経穴の取穴)						
第7週	体幹部の主要な経穴の復習						
第8週	小テスト 体幹部の主要な経穴の取穴						
第9週	足の太陽膀胱経(主要な経穴の復習) 足の少陰腎経(主要な経穴の復習)						
第10週	小テスト 足の太陽膀胱経(主要な経穴の取穴) 足の少陰腎経(主要な経穴の取穴)						
第11週	手の厥陰心包経(主要な経穴の復習) 手の少陽三焦経(主要な経穴の復習)						
第12週	小テスト 手の厥陰心包経(主要な経穴の取穴) 手の少陽三焦経(主要な経穴の取穴)						
第13週	足の少陽胆経(主要な経穴の復習) 足の厥陰肝経(主要な経穴の復習)						
第14週	小テスト 足の少陽胆経(主要な経穴の取穴) 足の厥陰肝経(主要な経穴の取穴)						
第15週	筆記試験 + 振り返り学習						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験15年	担当者	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 肝系統に関するⅠ～Ⅲの疾患の鍼灸療法が説明できる。 2. 心系統に関するⅠ～Ⅲの疾患の鍼灸療法が説明できる。 3. 脾系統に関するⅠ～Ⅶの疾患の鍼灸療法が説明できる。 4. 肺系統に関するⅠ～Ⅲの疾患の鍼灸療法が説明できる。			評価方法			
授業概要	1年生の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週							実施結果
第1週	治療各論 第2節 2-1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労 (配布プリント参照)						主要症候に対する鍼灸療法まとめ
第2週	Ⅱ. 気分障害(うつ状態) (配布プリント参照)						
第3週	Ⅲ. めまい (配布プリント参照)						
第4週	2-2心系統 Ⅰ. 動悸・息切れ (配布プリント参照)						
第5週	Ⅱ. 血圧異常 (配布プリント参照)						
第6週	Ⅲ. 睡眠障害 (配布プリント参照)						
第7週	2-3脾系統 Ⅰ. 食欲不振 (配布プリント参照)						
第8週	Ⅱ. 肥満 Ⅲ. やせ (配布プリント参照)						
第9週	Ⅳ. 悪心・嘔吐 (配布プリント参照)						
第10週	Ⅴ. 便秘 (配布プリント参照)						
第11週	Ⅵ. 下痢 (配布プリント参照)						
第12週	Ⅶ. 歯痛 (配布プリント参照)						
第13週	2-4肺系統 Ⅰ. 咳嗽と喀痰 Ⅱ. 呼吸困難 (配布プリント参照)						
第14週	Ⅱ. 鼻閉・鼻汁 (配布プリント参照)						
第15週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野 大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床上、遭遇する頻度が高い疾患の西洋医学的な知識を理解する。 また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学における各疾患を理解する。			期末試験 90% その他(出席状況、授業態度等) 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肝系統 1)						
第2週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肝系統 2)						
第3週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肝系統 3)						
第4週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(心系統 1)						
第5週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(心系統 2)						
第6週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(心系統 3)						
第7週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(脾系統 1)						
第8週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(脾系統 2)						
第9週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(脾系統 3)						
第10週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肺系統 1)						
第11週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肺系統 2)						
第12週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(肺系統 3)						
第13週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(腎系統 1)						
第14週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(腎系統 2)						
第15週	第2章 第2節 臓腑と関連する症候(腎系統 3)						
授業外 学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中		佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 東洋医学の診断(四診)ができる。 2. 得られた所見から病態を想起できる。 3. 東洋医学の考えに基づき、病態把握ができる。			評価方法			
授業概要	東洋医学の診断技術(四診)の方法や病態把握について講義し、その実習を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版東洋医学概論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ、鍼、もぐさ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	切診						
第2週	脈診の見方						
第3週	脈状診						
第4週	比較脈診						
第5週	腹診						
第6週	難経系腹診						
第7週	傷寒論系腹診						
第8週	腹診の診断						
第9週	弁証<四診合参>						
第10週	その他の切診<切経>						
第11週	その他の切診法<経穴診>						
第12週	その他の切診法<経穴診>						
第13週	その他の切診法<経穴診>						
第14週	弁証論治						
第15週	弁証論治						
授業外学習指示等	基礎となる東洋医学概論を復習しておくこと。また、日常的に多くの人に四診を実践し、経験を積むこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はり・きゅう実技 II	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	星野 英二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	取穴の際に必要な体表解剖を習得し鍼灸の臨床に応用する。			評価方法			
授業概要	ペアを組みメディスンペンで骨の指標や筋の走行を体表に描いて取穴をする。取穴した部位に刺鍼しパルスを用いて筋の収縮を確認する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、経絡経穴概論	使用器材	パワーポイント、メディスンペン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	下肢の解剖学(下肢帯骨、自由下肢骨、大腿の筋、下腿の筋、足の筋)						
第2週	骨盤の触察(腸骨稜、上前腸骨棘、上後腸骨棘、坐骨結節、ヤコビー線、梨状筋下孔)						
第3週	自由下肢骨の触察 大腿骨(大転子、大腿骨頭、大腿骨内側顆・外側顆) 膝関節周囲(脛骨内側顆・外側顆、脛骨粗面、膝蓋骨、関節裂隙)						
第4週	足の陽明胃経の取穴						
第5週	足の陽明胃経の取穴および刺鍼						
第6週	足の太陰脾経の取穴						
第7週	足の太陰脾経の取穴および刺鍼						
第8週	足の太陽膀胱経の取穴						
第9週	足の太陽膀胱経の取穴および刺鍼						
第10週	足の少陰腎経の取穴						
第11週	足の少陰腎経の取穴および刺鍼						
第12週	足の少陽三焦経の取穴						
第13週	足の少陽三焦経の取穴および刺鍼						
第14週	足の厥陰肝経の取穴						
第15週	足の厥陰肝経の取穴および刺鍼						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 III	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 安全で正確な刺鍼ができる。 2. 適切な徒手検査を想起し、実践できる。 3. 得られた所見から病態把握ができる。 4. 病態に適した鍼灸治療ができる。			評価方法			
授業概要	刺鍼をはじめとする基本的な治療技術を高め、肩関節の疾患と胸郭出口症候群について徒手検査などの病態把握の方法や鍼灸治療の方法を講義し、その実習を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、臨床医学総論、臨床医学各論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ鍼、もぐさ、メディカルペン、刺鍼練習台				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	刺鍼の練習 / 胸郭出口症候群の禁忌とリスク管理						
第2週	刺鍼の練習 / 胸郭出口症候群の病態と病因						
第3週	刺鍼の練習 / 胸郭出口症候群の解剖とランドマーク						
第4週	刺鍼の練習 / 胸郭出口症候群の徒手検査法						
第5週	刺鍼の練習 / 胸郭出口症候群の徒手検査法						
第6週	刺鍼の練習 / 斜角筋症候群の局所解剖と経穴						
第7週	刺鍼の練習 / 肋鎖症候群の局所解剖と経穴						
第8週	刺鍼の練習 / 過外転症候群の局所解剖と経穴						
第9週	到達度の確認						
第10週	胸郭出口症候群の鍼灸治療<腕神経叢圧迫型>						
第11週	胸郭出口症候群の鍼灸治療<腕神経叢牽引型>						
第12週	胸郭出口症候群の鍼灸治療<頸肩こり>						
第13週	まとめ / 斜角筋症候群の診断と治療						
第14週	まとめ / 肋鎖症候群の診断と治療						
第15週	まとめ / 過外転症候群の診断と治療						
授業外学習指示等	1年次に学習した解剖学と経絡経穴概論を復習しておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 IV	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験10年	担当者	堀之内 貴一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸を行なえること、疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。			評価方法			
授業概要	上肢の疾患の鑑別に必要な検査法を学び、その疾患の鍼灸施術を習得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	上肢の検査法①						
第2週	上肢の検査法②						
第3週	上肢の検査法③						
第4週	上肢の検査法④						
第5週	上肢の検査法⑤						
第6週	上肢の検査法⑥						
第7週	上肢の検査法⑦						
第8週	上肢の検査法⑧						
第9週	上肢への刺鍼①						
第10週	上肢への刺鍼②						
第11週	上肢への刺鍼③						
第12週	上肢への刺鍼④						
第13週	上肢への刺鍼⑤						
第14週	上肢への刺鍼⑥						
第15週	上肢への刺鍼⑦						
授業外 学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 安全で正確な刺鍼ができる。 2. 適切な徒手検査を想起し、実践できる。 3. 得られた所見から病態把握ができる。 4. 病態に適した鍼灸治療ができる。			評価方法			
授業概要	刺鍼をはじめとする基本的な治療技術を高め、腰下肢の疾患について徒手検査などの病態把握の方法や鍼灸治療の方法を講義し、その実習を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、臨床医学総論、臨床医学各論、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)、新版経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター、ベッド、ディスプレイ、鍼、もぐさ、メディカルペン、刺鍼練習台				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	腰痛の禁忌とリスク管理						
第2週	腰痛の診察手順						
第3週	筋・筋膜性腰痛の診断と治療						
第4週	腰椎椎間板症の診断と治療						
第5週	椎間関節性腰痛の診断と治療						
第6週	変形性腰椎症の診断と治療						
第7週	腰椎圧迫骨折の診断と治療						
第8週	変形性股関節症の診断と治療						
第9週	仙腸関節痛の診断と治療						
第10週	腰下肢痛の禁忌とリスク管理						
第11週	腰下肢痛の診察手順						
第12週	腰部脊柱管狭窄症の診断と治療						
第13週	脊椎分離・すべり症の診断と治療						
第14週	腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療						
第15週	梨状筋症候群の診断と治療						
授業外学習指示等	1年次に学習した解剖学と経絡経穴概論を復習しておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 VI	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	加藤 孝紹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中国鍼と和鍼の違いを学び、身体への得気を得る刺針方法や、鍼刺激の強弱をコントロールできるようにする。			評価方法			
授業概要	基本的な補寫技術を通じて、取穴部位、局所解剖などを復習する。治療者としての手や指を作り、基礎的な患者対応を学ぶ。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布プリント、はりきゅう実技	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	鍼の種類と補寫手技 ①						
第2週	鍼の種類と補寫手技 ②						
第3週	中国鍼の特徴						
第4週	基本の補寫 ① 捻転法						
第5週	基本の補寫 ②						
第6週	基本の補寫 ③						
第7週	基本の補寫 ④						
第8週	基本の補寫 ① 提挿法						
第9週	基本の補寫 ②						
第10週	基本の補寫 ③						
第11週	基本の補寫 ④						
第12週	総合練習 ①						
第13週	総合練習 ②						
第14週	総合練習 ③						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等							

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床実習前施術実技試験	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験15年	担当者	柊木 明子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	3年時の臨床実習や卒業後の臨床に備え、医療面接の手法、各種徒手検査の実施、治療方針決定から配穴まで、臨床の一連の流れについて理解し、実践できる様にする。			評価方法			
授業概要	配布するテキストをもとに座学を行い医療面接における基本を学習する。その後班分けをしロールプレイを行い、実際の間診技法について練習を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	講義プリント配布	使用器材	液晶プロジェクター、配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 医療面接について						
第2週	診療記録(カルテ)の意義、記入方法						
第3週	医療面接における各種手法①(医療面接時の態度など)						
第4週	医療面接における各種手法②(医療面接時の質問方法など)						
第5週	病態把握1(現代医学的病態把握の方法①)						
第6週	病態把握2(現代医学的病態把握の方法②)						
第7週	病態把握3(東洋医学的病態把握の方法①)						
第8週	病態把握4(東洋医学的病態把握の方法②)						
第9週	医療面接ロールプレイ①						
第10週	医療面接ロールプレイ②						
第11週	医療面接ロールプレイ③						
第12週	医療面接ロールプレイ④						
第13週	医療面接ロールプレイ⑤						
第14週	医療面接ロールプレイ⑥						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、効果的な医療面接の方法について検討し実践できるように努めること。						

令和5年度 授業計画書							
学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床実習	授業時期	後期	授業時数	45
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験10年	担当者	堀之内 貴一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	臨床前実技試験で学んだ事をもとにして、より臨床の現場に近い状況を想定し様々な治療技術の習得を目標とする。			評価方法			
授業概要	様々な疾患についての病態把握や治療方法を講義し、その実習を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プリント、経絡経穴概論、東洋医学臨床論(はりきゆう編)	使用器材	ベッド、プロジェクター、ディスプレイ、鍼、もぐさ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	臨床実習①(問診から病態把握まで)						
第2週	臨床実習②(問診から病態把握まで)						
第3週	臨床実習③(問診から病態把握まで)						
第4週	臨床実習④(問診から病態把握まで)						
第5週	臨床実習⑤(問診から病態把握まで)						
第6週	臨床実習⑥(問診から病態把握まで)						
第7週	臨床実習⑦(問診から病態把握まで)						
第8週	臨床実習⑧(問診から病態把握まで)						
第9週	臨床実習⑨(問診から病態把握まで)						
第10週	臨床実習⑩(問診から病態把握まで)						
第11週	臨床実習⑪(問診から病態把握まで)						
第12週	臨床実習⑫(問診から病態把握まで)						
第13週	臨床実習⑬(問診から病態把握まで)						
第14週	臨床実習⑭(問診から病態把握まで)						
第15週	臨床実習⑮(問診から病態把握まで)						
第16週	臨床実習⑯(問診から病態把握まで)						
第17週	臨床実習⑰(問診から病態把握まで)						
第18週	臨床実習⑱(問診から病態把握まで)						
第19週	臨床実習⑲(問診から病態把握まで)						
第20週	臨床実習⑳(問診から病態把握まで)						
第21週	臨床実習㉑(問診から鍼灸施術まで)						
第22週	臨床実習㉒(問診から鍼灸施術まで)						
第23週	臨床実習㉓(問診から鍼灸施術まで)						
第24週	臨床実習㉔(問診から鍼灸施術まで)						
第25週	臨床実習㉕(問診から鍼灸施術まで)						
第26週	臨床実習㉖(問診から鍼灸施術まで)						
第27週	臨床実習㉗(問診から鍼灸施術まで)						
第28週	臨床実習㉘(問診から鍼灸施術まで)						
第29週	臨床実習㉙(問診から鍼灸施術まで)						
第30週	臨床実習㉚(問診から鍼灸施術まで)						
授業外学習指示等	臨床に際し必要な知識(解剖学や経穴など)の再復習をすること。刺鍼練習台などで治療技術の研鑽に励むこと。						